

ロータリー



談 話 室



日・米の大企業勤務後に2名で創業した経験から —— 若人への期待 ——

福島高専第2回生の工業化学科卒後、社会人になってから45年が経過しました。この間に、国内では日立製作所に5年間勤務し、次には工業技術院 東工試（現：産総研）にて3年ほどいわゆる“もぐり研究生”という形で基礎知識を深めました。その後、Hewlett-Packard（現：アジレント）とDow Chemical社研究所に勤務し、Dow Chemical在職中には豊橋技科大から博士号を取得しました。そして、製造所/営業所（営業員）も有しない、R&Dを主体とする新事業形態の会社を、ポリマー分析用熱分解装置と金属キャピラリーカラムを両輪として、今から22年前に創業しました。そのキャッチフレーズは“独創的な自社技術で世界に貢献し、常にWIN-WINを指向するSmall Giant Companyとして、その道の世界No.1を目指す”というものです。そして大企業では経験のできない幾多の困難を克服して今日では、アメリカ人4名、中国人1名を含む34名の事実上世界No.1を達成できた小企業に至っております。その経験から、今春社会人となる学生さんへ若人への期待と称してエールを贈りたいと思います。

1. “人は信じて、仕事の結果は最初から信じない”

この小タイトルは、私が経営を実践してきた創業から紆余屈折の22年間に得た教訓ですが、ほとんどの弊社社員にとっては、この短いタイトルはかなり刺激的ではないかと思えます。私もこのタイトルを、もっと優しい表現にしたほうが良いのではないかと、感じています。しかしそこで折れると小企業の弊社は思わぬ方向へと舵を取られ、最悪の事態を招くのではないかと感じます。実際、この言葉を初めて聞いたほとんどの新入社員や、特に大企業からの中途入社社員は、当初は、自分は上司に信頼されていないのでは？と知っているようです。しかしながら、仕事をするにつれて、彼らもこの言葉の真の意味を認識し、やがて納得するようになります。

どこの社会でも同じですが、仕事の成果を上司に報告することは当たり前で、特に社外へ報告する場合は必ず査読が入ります。その結果、テニヨハの訂正はもちろんのこと、まして、辻褄が合わない場合には差し戻しも当たり前です。このように、新たな業務を始めて間もない頃は、自身の出した成果を、的確

な文章や言葉でもって他人に正しく伝えることは、そうそう容易なことではありません。そのようなときには、“人は信じて、仕事の結果は最初から信じない”ということを思い浮かべてください。私は、今でも自分の書いた文章を校閲して頂くと、加筆校正されることが多々あり、自分の情けなさを感じます。しかし、こればかりは、自分の能力の限界であり、鍛え上げる以外に近道はありません。昨年9月の千秋楽で、全勝優勝と横綱昇進をかけた日馬富士は、横綱白鵬との長い熱戦の末に勝利を収めました。全身から逆汗を拭きながら、この勝利をどう思いますかとアナウンサーに聞かれたときに、“日々の練習の積み重ねが今日の自分を創っていると思います”と、自分に言い聞かせながら何度も同じ言葉を繰り返していたことが、実に印象的でありました。これは、営む世界は違っていますが、ほとんどの職業に通じる言葉ではないかと思ひ感心しました。

2. 社会人と学生、大企業と中小企業の違い

ここで、社会人と学生の違いについて考えてみます。学生はお金を払って、教育を受け自分を磨く権利を与えられていますが、その権利行使は義務でもあります。もちろんアルバイトで多少の収入を得ることはできますが、所詮学生でいる間は、親や社会から庇護を受けている立場です。学生は、何かあっても、『学生だから仕方ない』ということで許されるときもありますが、同じ年齢の社会人は許されず、何らかの罰則が下されます。

一方、社会人は働いて収入を得る反面、税金、年金や保険料を支払い、そうしたことにより自分の働いている会社を支え、広義の意味で社会の構成一員となります。またその組織にいる同僚には、家族持ちの人もいますので、その人達を間接的に養うことにもなります。言い換えれば、これで初めて一人前の人間として、自他共に認められることとなります。また社会人になったら、お金を頂いてお客様を満足させる義務が発生します。この義務は学生には全くないとは言いませんが、両者には大きな隔たりがあります。これは、社会人になってからでないかと判らないことですが、このことを事前知っているかどうかで、入社後の人生は大きく異なります。

大企業と中小企業の違いについては、諸々の議論がありますが、中小企業で楽しく働くために大切なことは、大企業のようにある限定した範囲の仕事ですれば良いのではなく、人数が少ない分、絶えず2,3の複数の仕事は当たり前であることを認識しなければなりません。特に弊社では、英語が必須であり、例えば国際会議が近づくと、スタッフは日頃の業務はもとより、英語での発表の前準備も行わなければならないはず多忙を極めます。しかし、その見返りとして、本人の実力は必ず育成されます。大企業や公務員の看板を背負って歩んだ人が、退職後あるいは中途入社として様々な中小企業で働く場合には、そのような複数の仕事をした経験が少ないために、当初は極めて困難な局面に遭遇しているところをしばしば見かけます。

松下幸之助曰く“誰にも、一人の人生において大きなチャンスは、最低3回はある”。柔軟な頭脳と体力に自信がある若人が、もし中小企業でのマルチ労働を将来の人生にプラスであると考えるのであれば、ぜひ自分の人生のために大企業ではなく

苦勞は多いが、その分、実りも多い職場へチャレンジして欲しいと思います。

最後に、若い人へ下記の言葉を贈ります。

“すべて原因自分論である。『人生は思うようになる』という人と『思うようにならない』という人がいる。これはどちらも正解である。人生は思うようになると思う人は、思うようになる。思うようにならないという人は、思うようにならない。まずは、「こうなりたい」という望みをもつ事が大事である。それがやがて「こうなるんだ」という意思になり、「必ず実現できる」という強い信念に変わる。会社というものは、みんな零細企業から幾多の困難を乗り越え大きくなってきた。要は志である。志の高い人は、必ず願いを達成する。”

1) “新・経営の原理原則”, p. 13 (2002), (タナベ経営出版).
〔フロンティア・ラボ株式会社 渡辺忠一〕

インフォメーション

第17回高分子分析討論会

天候にも恵まれた2012年10月25, 26日の2日間、高分子分析研究懇談会主催の高分子分析討論会が名古屋市中心企業振興会館(吹上ホール)で開催された。本会場における当討論会の開催は初めてであったが、非常に充実した設備であった。本年は、発表件数は82件、参加者数は312名、産官学からの参加するほぼ例年並みの規模となった。また、協賛企業数は27社を数え、両日にわたりポスター会場内にて各種装置・データ処理ソフトなどの説明とデモが行われた。

初日午前中は、出口義国実行委員長(カネカテクノロジー)の挨拶による開会の後、第1回の研究発表が行われた。本会の発表形式は、最初に口頭でそれぞれ3分以内のレビュー講演を行った後、1時間半のポスター発表を行うものである。ポスター発表では、至る所で活発な討論が交わされ、会場には熱気が溢れていた。また、高分子分析における研究対象の広さから、発表内容は高分子分析のみならず、学問的にも技術的にも幅広く、多岐にわたっていた。

午後は、西野孝教授(神戸大学大学院)より「高分子表面の機能化とキャラクタリゼーション」の演題で特別講演が行われた。近年推進されているエキゾチック表面・界面の研究結果とともに、放射光を含めたX線を利用した表面・界面の解析事例と問題点について紹介された。続いて、第2回の研究発表が行われた。

また、同夕には名古屋の夜景が一望できる最上階ホールにて懇親会が開催され、日本分析化学会の中村洋会長をはじめ、多くの方々にご参加いただいた。料理や酒を囲みながら和やかな雰囲気の中で盛況のうちに初日の日程を終えた。

二日目午前には第3回、午後より第4回の研究発表が行われ、その後、石田康行准教授(中部大学)の総会司会のもと、「高分子分析討論会における分析技術の動向」の演題で、松田裕生氏(帝人)よりNMR、佐藤浩昭氏(産総研)より質量分



レビュー講演風景



ポスター会場風景

析、鈴木俊夫氏(旭硝子)より分光分析についてレビュー講演が行われた。17回にわたる討論会での発表件数の推移や、各分野にごとにおける注目される技術などが紹介された。最後に、渡辺健市高分子分析研究懇談会副運営委員長(豊田合成)より閉会の挨拶が行われた。

ポスター賞等は、歴代運営委員長・実行委員長の選考による「審査員賞」が4件、ポスター発表者の投票による「ポスター賞」が4件あり、懇親会および閉会時に、出口義国実行委員長より授与された。受賞した演題と演者を以下に記した。

◆審査員賞

「共鳴ラマン散乱による高分子材料中の紫外線吸収剤の選択検出」 加藤雄一(豊田中央研究所)

「抗体磁性ビーズを併用したMALDI-MSおよび反応熱分解GC/MSによる細菌構成成分の精密解析」 鵜飼浩志(中部大学)

「MALDIイメージングを用いた高分子材料の解析」 佐藤幸司(旭化成)

「ナノ微粒子質量分析(Nano-PALDIMS)の低～高分子の網羅的検出」 平修(北陸先端大院)

◆ポスター賞

「MALDI-MSおよび熱分解分析法によるポリエチルシリケート系シランカップリング剤架橋反応の解析」 山内一輝(名